

防衛大学校達第2号

防衛大学校規則（昭和36年防衛庁訓令第81号）第34条の規定に基づき、防衛大学校理工学研究科学修規程を次のように定める。

平成8年4月1日

防衛大学校長 松本三郎

防衛大学校理工学研究科学修規程

改正 平成8年10月1日防衛大学校達第11号	平成10年4月1日防衛大学校達第3号
平成11年4月9日防衛大学校達第3号	平成12年3月31日防衛大学校達第6号
平成13年4月9日防衛大学校達第7号	平成14年3月27日防衛大学校達第5号
平成15年10月3日防衛大学校達第12号	平成18年3月29日防衛大学校達第2号
平成19年3月30日防衛大学校達第7号	平成20年3月31日防衛大学校達第5号
平成23年3月31日防衛大学校達第5号	平成24年3月30日防衛大学校達第5号
平成28年3月31日防衛大学校達第6号	令和3年3月29日防衛大学校達第7号
令和4年3月18日防衛大学校達第16号	令和5年2月28日防衛大学校達第2号
令和6年3月25日防衛大学校達第4号	

（趣旨）

第1条 防衛大学校理工学研究科（以下「研究科」という。）における学修については、防衛大学校規則（昭和36年防衛庁訓令第81号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この規程による。

（研究科の教育）

第2条 研究科の教育は、授業科目（以下「科目」という。）の授業及び卒業論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）により行うものとする。

（指導教官）

第3条 研究科学生（以下「学生」という。）ごとに、研究指導を担当する教官（以下「指導教官」という。）を定める。

2 指導教官は、学生が所属する専攻の教授とする。ただし、必要がある場合は、

准教授をもってこれに充てることができる。

- 3 指導教官が定められるまでの間は、理工学研究科前期課程（以下「前期課程」という。）にあつては、理工学研究科前期課程運営部会の部会員が、理工学研究科後期課程（以下「後期課程」という。）にあつては、理工学研究科後期課程運営部会の部会員が、それぞれ学生の指導に当たるものとする。

（授業、学期及び授業時限）

第4条 授業、学期及び授業時限は、防衛大学校本科学習規程（平成元年防衛大学校達第3号。以下「本科学習規程」という。）第2条から第4条までの規定を準用する。

（授業科目及び単位数）

第5条 学生が履修すべき科目及びその単位数は前期課程にあつては別表第1、後期課程にあつては別表第2のとおりとする。

（単位の計算方法及び授業期間）

第6条 前条の各科目の単位の計算方法及び授業期間は、本科学習規程第7条の規定を準用する。

（履修方法）

第7条 前期課程学生は、別表第1に定める科目のうちから30単位以上を選択し、これを履修しなければならない。この場合、当該学生が所属する専攻の専攻共通科目から8単位以上を履修するものとする。

- 2 前項の場合において、前期課程学生が希望し、指導教官が必要と認める場合は、本科の理工学専門教育科目を履修することができる。ただし、卒業に必要な単位には含めない。
- 3 後期課程学生は、別表第1及び別表第2に定める科目のうちから10単位以上を選択し、これを履修しなければならない。この場合、当該学生が所属する専攻

の専攻共通必修科目 4 単位を必ず履修するものとする。

(履修計画書の提出)

第 8 条 学生は、毎学年度、所定の期間内に指導教官の指導を受けて、履修計画書を教務部長に提出しなければならない。

2 履修計画の変更を行う場合は、指導教官及び授業科目担当教官（以下「担当教官」という。）の承認を得て、変更届を教務部長に提出しなければならない。

(試験)

第 9 条 担当教官は、各科目ごと別に定められた日時により定期試験を行うものとする。

2 傷病、その他やむを得ない事由により、定期試験を受けることができなかった学生に対しては、追試験を行うことができる。

(単位の修得)

第 10 条 担当教官は、学生の試験の成績、出席時間数を総合することにより、「優」、「良」、「可」及び「不可」の順に当該科目の修得の程度を評定する。

2 前項において「可」以上の評定は、単位を修得したものとする。

3 担当教官は、試験終了後 1 週間以内に成績表を作成して、学校長に提出するものとする。

(卒業論文の提出等)

第 11 条 学生は、所定の期日までに卒業論文を学校長に提出し、その審査と最終試験を受けなければならない。

(卒業論文の審査及び最終試験)

第 12 条 卒業論文は、学校長の指名する卒業論文審査委員が審査するものとする。

2 最終試験は、学校長の指名する最終試験委員が卒業論文を中心に、これに関連ある科目について行うものとする。

(卒業の要件)

第13条 前期課程の卒業の要件は、2年以上修業し、履修すべきものと定められている科目につき30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、卒業論文の審査及び最終試験に合格することとする。

ただし、前期課程において優れた研究業績を上げた者で、理工学研究科前期課程委員会が認めた者については、規則第23条ただし書前段に掲げる期間以上の修業期間で足りるものとする。

2 後期課程の卒業の要件は、3年以上修業し、履修すべきものと定められている科目につき10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、卒業論文の審査及び最終試験に合格することとする。

ただし、優れた研究業績を上げた者で、理工学研究科後期課程委員会が認めた者については、規則第23条第1号から第3号に掲げる期間以上の修業期間で足りるものとする。

(委任規定)

第14条 この達の実施に関し必要な細部事項は、前期課程にあつては理工学研究科前期課程運営部会、後期課程にあつては理工学研究科後期課程運営部会の議を経て教務部長が定める。

附 則

- 1 この達は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 防衛大学校理工学研究科学修規程(平成4年防衛大学校達第3号)は廃止する。
- 3 平成7年度以前に選抜された研究科学生への適用については、なお従前の例による。

附 則 (平成8年10月1日防衛大学校達第11号)

この達は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成10年4月1日防衛大学校達第3号）

この達は、平成10年4月10日から施行する。

附 則（平成11年4月9日防衛大学校達第3号）

この達は、平成11年4月9日から施行する。

附 則（平成12年3月31日防衛大学校達第6号）

- 1 この達は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 平成11年度以前に選抜された理工学研究科学生については、第1条中「理工学研究科前期課程」とあるのは「理工学研究科」と読み替えるものとする。

附 則（平成13年4月9日防衛大学校達第7号）

この達は、平成13年4月9日から施行する。

附 則（平成14年3月27日防衛大学校達第5号）

- 1 この達は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 平成13年度以前に選抜された理工学研究科前期課程学生への適用については、この達の施行後も、なお従前の例による。

附 則（平成15年10月3日防衛大学校達第12号）

- 1 この達は、平成15年10月9日から施行する。
- 2 平成14年度以前に選抜された理工学研究科前期課程学生への適用については、この達の施行後も、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月29日防衛大学校達第2号）

- 1 この達は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成17年度以前に選抜された理工学研究科前期課程及び後期課程学生への適用については、この達の施行後も、なお従前の例による。

附 則（平成19年3月30日防衛大学校達第7号）

この達は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日防衛大学校達第5号）

この達は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成23年3月31日防衛大学校達第5号）

- 1 この達は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成22年度以前に選抜された理工学研究科前期課程への適用については、この達の施行後も、なお従前の例による。

附 則（平成24年3月30日防衛大学校達第5号）

この達は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月31日防衛大学校達第6号）

- 1 この達は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成26年度以前に選抜された理工学研究科前期課程学生及び後期課程学生への適用については、この達の施行後も、なお従前の例による。

附 則（令和3年3月29日防衛大学校達第7号）

- 1 この達は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 平成31年度以前に選抜された理工学研究科前期課程学生及び後期課程学生への適用については、この達の施行後も、なお従前の例による。

附 則（令和4年3月18日防衛大学校達第16号）

この達は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和5年2月28日防衛大学校達第2号）

この達は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和6年3月25日防衛大学校達第4号）

この達は、令和6年4月1日から施行する。

別表第1 (第5条関係)

専門区分	大講座	教育研究分野	授業科目及び単位数
電子工学専攻	電気システム工学	電気物理学	電気物理学特論Ⅰ(2)、電気物理学特論Ⅱ(2)、電気システム特論(2)、電気エネルギー特論(2)、エネルギー応用工学(2)、システム制御特論Ⅰ(2)、システム制御特論Ⅱ(2)、固体電子工学Ⅰ(2)、固体電子工学Ⅱ(2)、電子回路特論(2)、電子計測Ⅰ(2)、電子計測Ⅱ(2)、電子機能デバイスⅠ(2)、電子機能デバイスⅡ(2)、情報伝送工学Ⅰ(2)、情報伝送工学Ⅱ(2)、情報通信システム(2)、光波工学特論Ⅰ(2)、光波工学特論Ⅱ(2)、光通信特論(2)、光波センシング特論(2)、電波応用工学Ⅰ(2)、電波応用工学Ⅱ(2)、電波応用特論(2)、電子工学演習Ⅰ*(2)、電子工学演習Ⅱ*(2)、電子工学実験*(2)、電子工学特別研究*(4)、特別講義*(1)
		電気エネルギー工学	
		電機システム制御	
	電子機能工学	固体電子工学	
		電子回路	
		電子機能デバイス	
	情報通信工学	情報伝送工学	
		光波工学	
		電波応用工学	
	機械工学専攻	材料・加工システム	
構造力学			
精密工学			
熱・流体応用工学		エネルギー工学	
		流体力学	
		船舶海洋工学	
動力学システム		機械ダイナミクス	
		システム制御	
		車両工学	
航空宇宙工学		機体システム	空気力学
	推進工学		
	構造材料学		
	飛行システム	航空力学	

		宇宙・飛行システム	(2)、ヘリコプタ力学(2)、空力弾性学(2)、航空力学(2)、飛行体誘導(2)、宇宙機ダイナミクス・誘導制御特論(2)、軌道推定論(2)、宇宙システム特論(2)、飛行制御Ⅰ(2)、飛行制御Ⅱ(2)、飛行システム制御(2)、航空宇宙工学演習Ⅰ*(2)、航空宇宙工学演習Ⅱ*(2)、航空宇宙工学実験*(2)、航空宇宙工学特別研究*(4)、特別講義*(1)
物質工学専攻	材料工学	材料特性学	固体物性学(2)、無機材料特論(2)、材料プロセス学(2)、材料計測評価学(2)、有機材料特論(2)、電子材料特論(2)、先端材料学(2)、金属材料特論(2)、腐食防食学(2)、機能材料学(2)、材料強度学(2)、機能セラミックス(2)、分子特性解析(2)、機能性素材化学(2)、材料化学(2)、計測化学(2)、溶液化学(2)、有機素材化学(2)、高分子化学(2)、有機反応化学(2)、物性化学(2)、細胞分子化学(2)、遺伝子素材工学(2)、生命工学(2)、ゲノム機能科学特論(2)、物理化学特論(2)、反応化学(2)、反応速度論(2)、反応構造化学(2)、エネルギー化学特論(2)、火薬特論(2)、燃焼爆轟工学(2)、先端火薬学(2)、物質工学演習Ⅰ*(2)、物質工学演習Ⅱ*(2)、物質工学実験*(2)、物質工学特別研究*(4)、特別講義*(1)
		材料計測学	
		特殊材料学	
		機能材料学	
	素材・エネルギー化学	素材解析化学	
		有機素材化学	
		生命機能化学	
		エネルギー化学	
		火薬学	
情報数理専攻	数理学	数理構造	代数学(2)、応用代数学(2)、幾何学(2)、位相数学(2)、位相幾何学(2)、解析学(2)、応用解析学(2)、関数論(2)、微分方程式論(2)、応用確率Ⅰ(2)、応用確率Ⅱ(2)、統計学特論(2)、数理計画法Ⅰ(2)、数理計画法Ⅱ(2)、離散最適化(2)、情報セキュリティ(2)、信号処理特論(2)、システムプログラミング(2)、並列処理特論(2)、カウンターサイバーテロ(2)、機械学習(2)、複雑系(2)、搜索理論(2)、射爆・交戦理論(2)、情報数理演習Ⅰ*(2)、情報数理演習Ⅱ*(2)、情報数理実習*(2)、情報数理特別研究*(4)、特別講義*(1)
		数理解析	
		応用数理	
	情報システム	応用システム工学	
		サイバーセキュリティ工学	
		計算機アーキテクチャ	
		知能情報	
		オペレーションズ・リサーチ	
		計数システム	

境界科学専攻	応用物理	応用物理情報	応用物理情報特論Ⅰ(2)、応用物理情報特論Ⅱ(2)、 応用情報伝送概論(2)、生体人間情報概論Ⅰ(2)、生 体人間情報概論Ⅱ(2)、応用弾道特論Ⅰ(2)、応用弾 道特論Ⅱ(2)、シミュレーション科学特論Ⅰ(2)、シ ミュレーション科学特論Ⅱ(2)、大規模シミュレー ション(2)、量子物理学特論Ⅰ(2)、量子物理学特論 Ⅱ(2)、数理物理学特論(2)、放射線計測学特論(2)、 放射線管理学(2)、素粒子原子核物理学特論(2)、構 造物性Ⅰ(2)、構造物性Ⅱ(2)、分光物性(2)、電子物 性Ⅰ(2)、電子物性Ⅱ(2)、量子統計物性(2)、境界科 学演習Ⅰ*(2)、境界科学演習Ⅱ*(2)、境界科学実験 *(2)、境界科学特別研究*(4)、特別講義*(1)
		生体人間情報	
		応用弾道	
		シミュレーション科学	
	基礎物理	理論物理	
		放射線科学	
		固体構造物性	
		電子物性	
地球環境科学専攻	地球宇宙科学	気象学	気象学Ⅰ(2)、気象学Ⅱ(2)、気象学Ⅲ(2)、地球シ ステム論Ⅰ(2)、地球システム論Ⅱ(2)、地球流体力 学Ⅰ(2)、地球流体力学Ⅱ(2)、地球惑星リモート センシング(2)、宇宙物理学特論(2)、水中音響環境 工学Ⅰ(2)、水中音響環境工学Ⅱ(2)、超音波工学 (2)、衛星海洋情報(2)、構造力学特論(2)、構造設計 学特論(2)、構造工学特論(2)、コンクリート工学特 論(2)、動的構造解析学(2)、衝撃工学(2)、動的部材 強度学(2)、防災構造学特論(2)、防災リスク特論 (2)、地盤工学特論(2)、地盤動力学(2)、基礎工学特 論(2)、環境地盤工学(2)、地盤減災工学(2)、水理学 特論(2)、河川工学特論(2)、海岸工学特論(2)、沿岸 海洋工学(2)、地球環境科学演習Ⅰ*(2)、地球環境 科学演習Ⅱ*(2)、地球環境科学実験*(2)、地球環境 科学特別研究*(4)、特別講義*(1)
		地球・海洋システム	
		宇宙科学及び地球 リモートセンシ ング	
		水中音響・海洋情報 工 学	
	土木環境工 学	構 造 工 学	
		衝 撃 工 学	
		地 盤 工 学	
		水 工 学	

<p>共 通 科 目</p>	<p>計算力学Ⅰ(2)、計算力学Ⅱ(2)、艦船システム特論(2)、電気油圧制御特論(2)、粘性流体力学(2)、飛行制御特論(2)、数値解析(2)、分析化学特論(2)、有機化学特論(2)、物質工学特論Ⅰ(2)、物質工学特論Ⅱ(2)、代数学概論(2)、応用代数学概論(2)、コンピュータ数理(2)、幾何学概論(2)、位相幾何学概論(2)、応用数理概論(2)、応用解析学概論(2)、関数論概論(2)、偏微分方程式概論(2)、アルゴリズム特論(2)、応用関数解析学(2)、パターン情報処理(2)、システムセキュリティ(2)、コンピュータアーキテクチャ(2)、ネットワークコンピューティング(2)、Java プログラミング(2)、オペレーションズ・リサーチ特論(2)、意思決定理論(2)、電子計算機概論(2)、応用気象学特論(2)、土木材料学特論(2)、交通工学特論(2)、水文学特論(2)、境界科学特論Ⅰ(2)、境界科学特論Ⅱ(2)</p>
----------------	--

注：*は専攻共通科目を、()は単位数を示す。

別表第2 (第5条関係)

専攻区分	教育研究分野	授業科目及び単位数
電子情報工学系専攻	エレクトロニクス工学	電子情報工学論究Ⅰ※(2)、電子情報工学論究Ⅱ※(2)、固体物理工学(2)、誘電体デバイス特論(2)、電子応用計測(2)、応用電子回路(2)、電磁波計測特論(2)、エネルギー応用工学特論(2)、信頼性工学特論(2)、通信材料工学特論(2)、フーリエ光学(2)、光ファイバ通信特論(2)、レーダ信号処理工学(2)、電磁波工学特論(2)、高速情報伝送とノイズ(2)、離散統計学特論(2)、ハイパフォーマンスコンピューティング(2)、数理計画法特論(2)、情報セキュリティ特論(2)、知能と複雑系(2)、意思決定工学(2)、解析学特論(2)、位相幾何学特論(2)、微分方程式特論(2)、非線形最適化特論(2)、適応制御特論(2)、代数学特論(2)、関数解析学特論(2)
	情報通信工学	
	情報知能メディア学	
装備・基盤工学系専攻	装備システム工学	装備・基盤工学論究Ⅰ※(2)、装備・基盤工学論究Ⅱ※(2)、熱エネルギー工学(2)、動的システム特論(2)、路外車両工学特論(2)、知能機械制御特論(2)、造艦学特論(2)、機械振動制御特論(2)、流体動力システム(2)、超精密加工(2)、ナノマイクロシステム特論(2)、超精密機械設計(2)、構造強度解析特論(2)、機械材料工学特論(2)、航空飛翔工学Ⅰ(2)、航空飛翔工学Ⅱ(2)、航空飛翔工学Ⅲ(2)、航空飛翔工学Ⅳ(2)、防災構造工学特論(2)、衝撃工学特論(2)、信頼性工学特論(2)、鉄筋コンクリート工学特殊講義(2)、建設材料特殊講義(2)、沿岸海洋工学特論(2)、河川・海岸災害論(2)、地盤工学特殊講義(2)、地盤防災工学特論(2)、基礎工学特論(2)、防災システム特論(2)
	装備生産工学	
	航空飛翔システム	
	防災工学	
物質・基礎科学系専攻	高エネルギー・物質工学	物質・基礎科学論究Ⅰ※(2)、物質・基礎科学論究Ⅱ※(2)、火薬学特論(2)、構造化学特論(2)、高分子科学特論(2)、物質科学特論(2)、素材化学特論(2)、物性・反応化学特論(2)、固体物性特論(2)、先端プロセス学特論(2)、先端環境材料特論(2)、機能性材料特論(2)、極限環境プロセッシング(2)、電子機能材料特論(2)、先端機能材料工学演習(1)、高エネルギー物
	先端機能材料工学	
	応用・基礎物理学	

	地球宇宙科学	理学特論(2)、量子場の理論(2)、数理科学特論(2)、放射線管 理学特論(2)、計算統計力学(2)、強相関物性特論(2)、超伝導 物性特論(2)、構造物性特論(2)、集積機能デバイス特論(2)、 衝撃超高压科学特論(2)、生体人間情報特論(2)、地球宇宙科 学特論Ⅰ(2)、地球宇宙科学特論Ⅱ(2)、地球宇宙科学特論Ⅲ (2)、地球宇宙科学特論Ⅳ(2)、振動波動特論(2)、海洋音響特 論(2)
--	--------	--

注1：※印は専攻共通必修科目を示す。

注2：（ ）内の数字は単位数を示す。